

災害支援と活動の実際 II

～平成27年9月関東・東北豪雨派遣を経験して～

研修のねらい

- 日本栄養士会 災害支援サポートチーム リーダー結成後、初出動の実際を知る。
- 個人レベルの準備を理解し実践できる。
- 指揮と連携・安全・情報伝達・評価について理解する。
- 特殊栄養食品ステーションの設置・活動を理解する。

関東 東北豪雨災害

日本栄養士会 災害支援サポートチーム
として

はじめて、災害派遣をチームとして活
動

はじめて、特殊栄養食品ステーションを
設置

茨城県 常総市



気象庁 HP

【発生日時】

- 平成27年9月10日 午前6:30 鬼怒川が溢水
- **正午すぎ、鬼怒川堤防が決壊**
- また、7カ所（市内3カ所）の溢水・越水が生じたほか、堤防の漏水や護岸崩壊により被害が多数発生した。
- 近隣の川においても、3カ所で堤防決壊、護岸崩壊により被害が発生。
- 市域の3分の1にあたる約40km²が浸水し、鬼怒川東地区で多くの家屋や事業所に浸水などの被害を受けた。

常総市 水害の状況

- 人的被害 死者2人 重軽傷者44人
- 住宅被害など
 - 全壊 53件、大規模半壊 1578件、半壊 3476件、
床上浸水 148件
(全壊、大規模半壊、半壊に至らないもの)
 - 床下浸水3072件
- 停電 約1万1300軒 断水 約1万1800軒
- 避難所39カ所
 - (市内26、市外13) に6223人が避難 (最大)
- 災害救助法が適用
- 避難指示対象 1万1230世帯 3万1398人 (最大)



- テレビやラジオなどで、河川の水位の上昇が報道されていた。
- 鬼怒川・小貝川の溢水が伝えられるとすでに、住宅地に濁流が押し寄せ浸水している。



ライフラインが止まってしまうかもしれない。

私にも何かできることは
ないのかな？



そのころ日本栄養士会では・・・。

初期対応が始まっていた。

- 組織内に派遣本部の立ち上げ
- 先遣隊の派遣
- 派遣の決定
- 派遣人数の決定
- 関連機関との調整
- 情報収集
(被害状況、交通情報、他機関の動きなど) 等

同時にチーム装備の点検も

記録資器材

パソコン デジカメ等

生活資器材

食料、 水（飲料水、生活用水）

ライフラインの状態

食料品の確保、特殊栄養食品の確保

防寒具等

初動対応の流れ

緊急事態の発生

マスコミ情報

民間公共機関

関係省庁

日本栄養士会
事務局

第一報

日本栄養士会長

日本栄養士会 専務・常務

報告・指示

第一報

報告・指示

日本栄養士会災害対策本部の設置

日本栄養士会JDA-DAT事務局

指定栄養士会JDA-DATの招集

出動

出動要請

突然ですが！！

皆さんは、栄養士として、被災地でお役に立ちたい
と思いました。

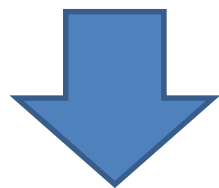
日本栄養士会では、災害対策本部を立ち上げました。

さて皆さん、どのような準備をされますか？



災害派遣要員としてあなたが派遣されることになりました。

実際の災害現場に赴く事を想定して、個人
装備、資機材等考えてください。
また、派遣に際して職場や家族にどのよう
に説明をし、了解をえますか？



被災した場合の受援活動も
考えてみましょう。

個人レベルでの初期対応

- 発生した災害に関心を向けることが重要
(過小評価しないこと)
- JDA-DATとしての出動の可能性等を確認
- 派遣される意思のあることを明示
- 所在・連絡先を明確化
- 派遣中のスケジュールの調整 (最低4～7日間)
- **家族・職場の上司・同僚の同意 (重要)**

個人装備の準備

➤ 個人防護具

ユニフォーム、ヘルメット、手袋、マスク等

➤ お金（頼りになるのは現金）

➤ 生活用品

衣服、清潔用品、個人医薬品・・・。

➤ 事務用品

筆記用具、メモ帳等

➤ 個人の携帯電話及び充電機器等

大原則は自己完結型

➤ 自己完結

移動手段がある。

必要物資を携行している。

被災地内での通信手段がある。

被災地内での生活（食事、宿泊）手段がある。

被災地に負担をかけない。

（自分のことは自分で）

➤ 必要な物品は自ら持参する（現地調達は難）

➤ 急性期であればあるほど自己完結型が
求められる。

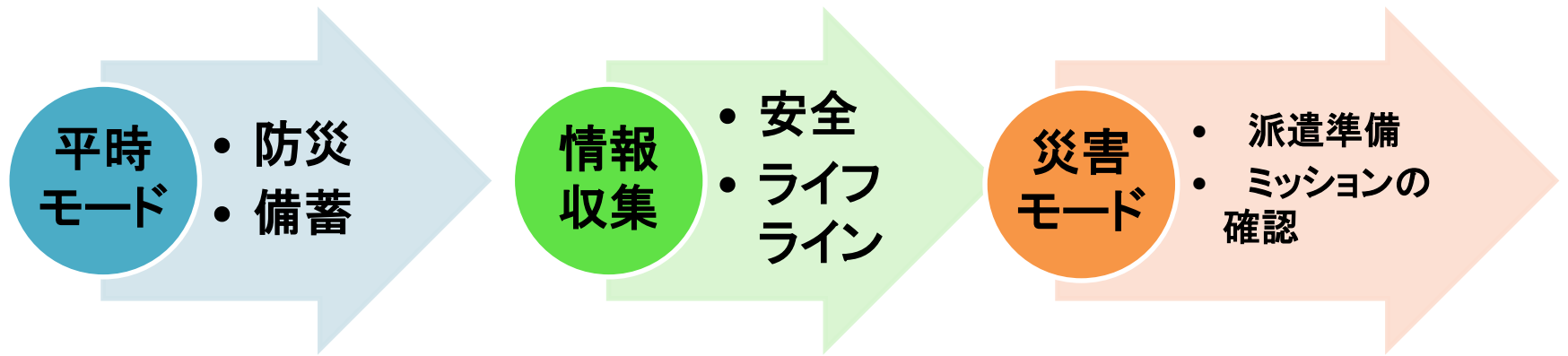
私の個人レベルでの初期対応

- 常総市の避難所開設状況や道路状況をラジオやインターネット等で情報収集
- **JDA-DAT対策本部設置のお知らせを待つ**
- 携帯電話は、連絡がつくように、メールもこまめにチェック
- **勤務先に、被災地への派遣を希望する旨を上司に説明**
- **家族へ被災地の現状と支援に赴きたい旨の説明**

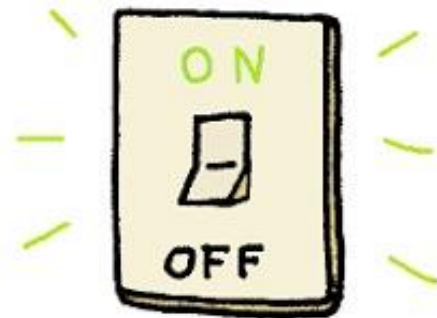
私の個人装備の準備

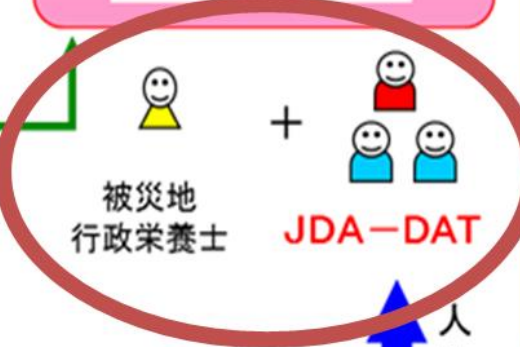
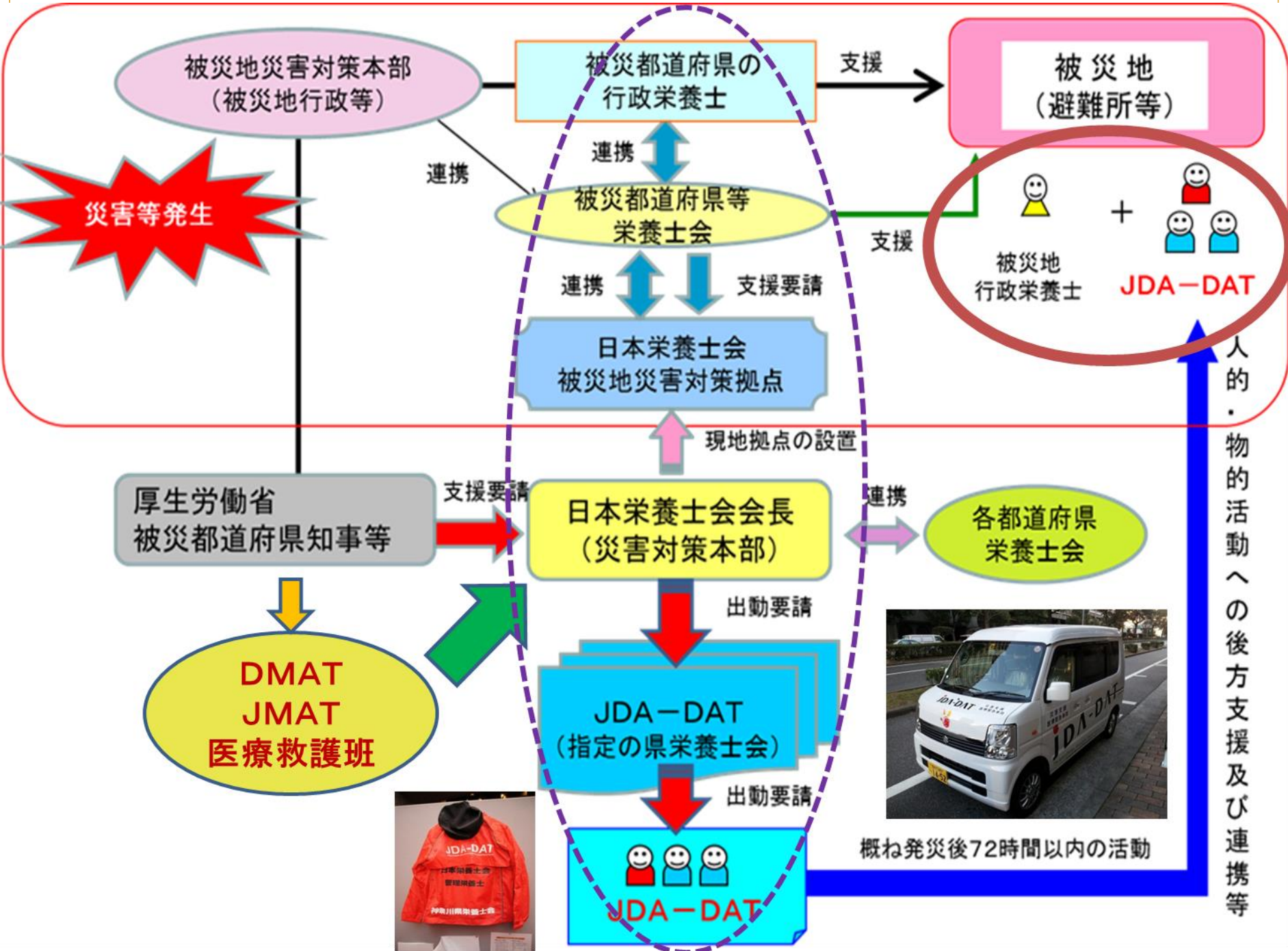
- 生活用品
着替え、清潔用品（アルコール、ウエットティッシュ、歯磨きティッシュ）、**常備薬、救急セット**・・・。
- ペットボトルの水、粉末スポーツ飲料 食料
- **自家用車の整備**（空気圧やガソリン等）
- 事務用品：筆記用具、メモ帳等
- 個人の携帯電話及び充電機器等
- **柿の種・コーヒー**
（大好物を入れて気持ちを盛り上げる）

平時モードから災害モードへ



やる気の出る
スイッチ





発災 ⇒ 日本栄養士会災害対策本部設置 ⇒ 出動要請 ⇒ 出動

発災

9月9日～10日

関東・東北地方に
甚大な被害あり

9月13日

日本栄養士会
災害対策本部立ち上げ
先遣隊の出動

9月14日

DAT災害対策本部より
各都道府県栄養士会
JDA-DATリーダーへ
出動要請
特殊栄養食品ステーション
設置

9月15日

DAT災害対策本部へ
出動希望を申請
待機と指示受

9月18日～21日

DAT災害対策本部より
18時に、指定の宿泊
場所にて、静岡隊2名
とDAT隊を待つよう
指示受
21日拠点より帰宅

大規模事故・災害への体系的な対応に必要な項目

C S C A T T T

- **C: Command&Control** 指揮と連携
 - **S: Safety** 安全
 - **C: Communication** 情報伝達
 - **A: Assessment** 評価
 - **T: Triage** トリアージ
 - **T: Treatment** 治療
 - **T: Transport** 搬送
- 対応の運営部分
- 提供される医療支援

英国 MIMMS Major Incident Medical Management and Supportより引用・改変

JDA-DAT

Command&Control

指揮と連携

- 災害医療の活動原則
- 指令命令系統を確立し組織的に行うことにより、より有効な活動が可能となる。
- 上下の指揮命令系統だけでなく、横の連携も重要
- JDA-DATの派遣
- 災害対策本部
茨城県災害対策本部
JDA-DAT
チームリーダー
各チーム
- 物資補給拠点責任者
炊き出しボランティア
他の災害支援チーム

(常総市の場合)



茨城県庁災害対策本部

厚生労働省



県栄養士会
災害対策本部

日本栄養士会災害対策本部



医療救護班帯同・特殊栄養食品S・ロジ
スティクス・避難所巡回・物資搬送・記録
等

常総市災害対策本部

医療救護現地対策室

保健所 (他県
保健師)

避難所(体育館)
保健師と相互に情報提供

保健所 (他
県保健師)

福祉避難所

保健所 (他県保健
師)

避難所1

避難所5



避難所8

避難所12

避難所2

避難所6

避難所3

避難所15

避難所19

Safety 安全

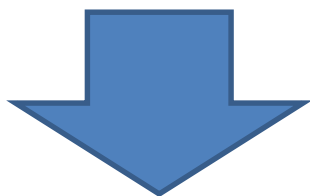
- 災害医療の活動原則
- 救助者の安全 (self)
- 現場の安全 (scene)
- 傷病 (survivor)
- JDA-DAT派遣
- 自分自身の安全 健康状態の把握
- DATのメンバーの安全健康状態の確認を行ったうえでの活動被災者支援

安全を守るよう行動する。

JDA-DATチーム編成

JDA-DATの編成（第6条）

JDA-DATは、指定栄養士会のスタッフとリーダーをもって編成することを基本とし、実際の活動時には被災害地の管理栄養士又は栄養士を1名以上を含む計4～5名程度で編成するものとする。



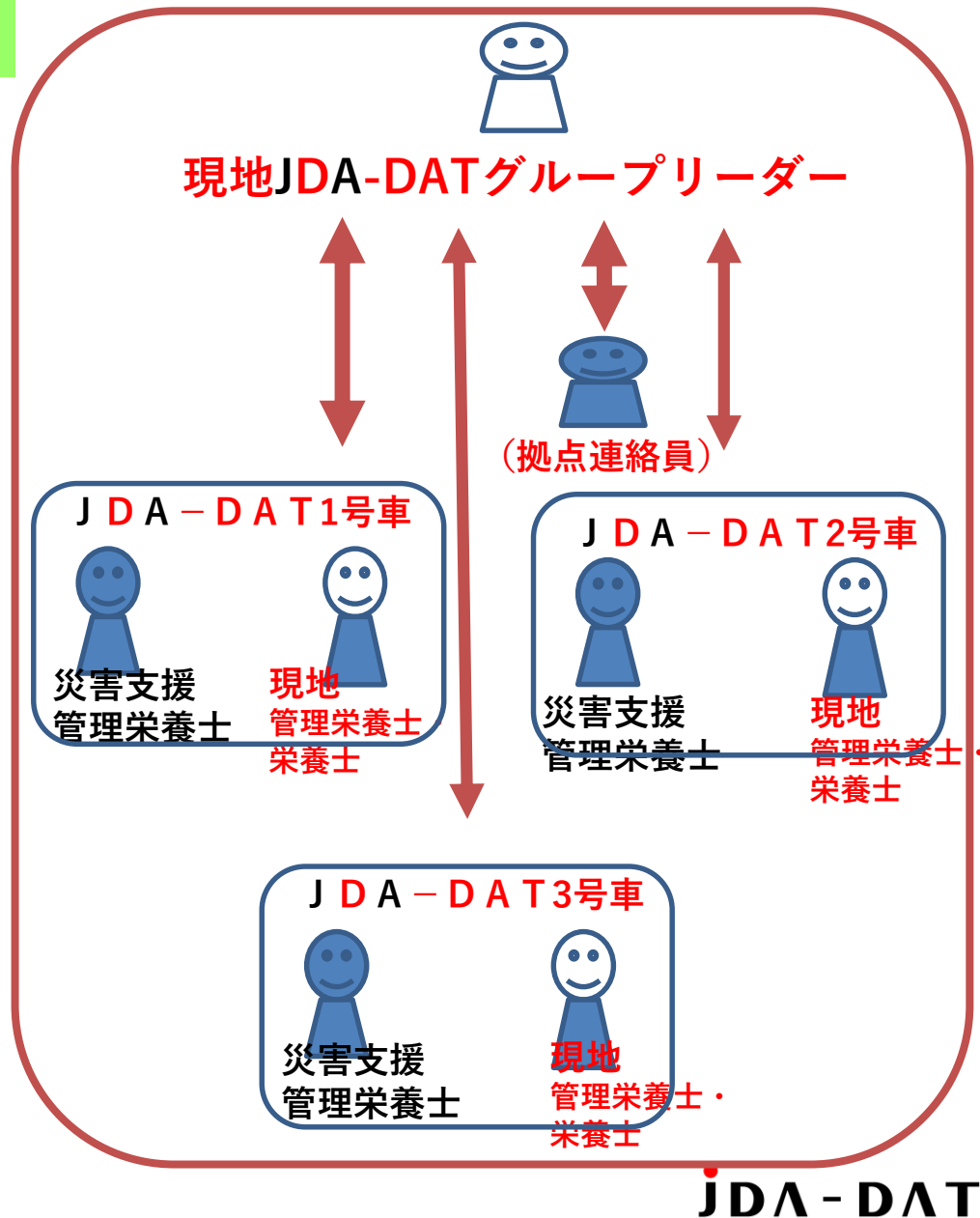
実際の活動

JDA-DATリーダー 3名

茨城県栄養士会 より3名

被災害地の管理栄養士又は栄養士を1名以上を含む計2名で編成。

* 物資搬入等予定がある時には拠点に残り連絡係を設けた。



Communication 情報伝達

- 災害医療の活動原則
- 情報不備により災害医療が進まなくなる
- 衛星電話 無線等
- 伝令も使われる
- チーム内の情報共有重要
- JDA-DAT派遣
- 災害対策本部からの情報は被災県栄養士より情報伝達。
- DAT災害本部に伝令
- ミーティングにて情報共有

Assessment 評価

- 災害医療の原則
- 常に、災害全体の状況
- 医療機関や公的機関の状況
- 自分たちの活動を評価
- 活動内容を修正していくことが必要
- JDA-DAT派遣
- ミッションの確認
- 自分たちの活動がミッションに沿っているか確認
- ミッション達成の評価
- 撤退準備

関東・東北豪雨災害《派遣人数》

- 延べ：58名（実働33名）

《派遣内訳》

- 栃木県【2名】 静岡県【3名】 愛知県【4名】
- 長野県【1名】 山梨県【1名】 東京都【3名】
- 埼玉県【1名】 神奈川県【1名】
- * 日栄災害対策本部協力：神奈川県【1名】
東京都【1名】

【派遣人数】

	9月13日	9月14日	9月15日	9月16日	9月17日	9月18日	9月19日	9月20日	9月21日	9月22日	計名
JDADAT	2	3	6	6	4	3	4	4	4	4	40
茨城県 栄養士会		2	2	2	2	2	2	2	2	2	18
計【名】	2	5	8	8	6	5	6	6	6	6	58

9月23日～10月13日の間、茨城県と茨城県栄養士会により
支援活動を継続。延べ約50名

関東・東北豪雨災害 ミッション

避難所の状況を確認し、茨城県保健予防課栄養士と協力し、避難所へ必要な救援物資を提供する。

対応できない相談に対しては、避難所管理者および関連機関につなぐ。

関東・東北豪雨災害における JDA-DATの主な活動

- ① 茨城県保健予防課のもとで避難所巡回等の実施
- ② 災害支援車両JDA-DAT河村号等による避難所への支援物資の輸送と巡回栄養相談
- ③ 日本栄養士会 特殊食品ステーションを設置（水海道体育館）
- ④ 避難所に駐在している避難所管理者・保健師との連携

日中は自宅の清掃、夜は避難所

避難所のすぐ近くまで汚水が混ざった水が上がっている。



- ✚ 1階部分が、洪水により浸水。
- ✚ 下水が混ざった水が流れ込む。道路・家の中も汚泥の堆積。
- ✚ 屋外は、乾いた汚泥が舞い上がっている。

被災地状況把握シート

記入日 年 月 日

避難所名 () 責任者氏名 ()

避難所の状況	
食事状況	食事回数 (0回・1回・2回・3回)/ 24時間 飲料水 (十分・不足・なし) *十分の目安は1.5L/日
ライフライン	水 (使用可・使用不可 →給水車(有・無)) ガス (使用可・使用不可) 電気 (使用可・使用不可) トイレ 使用可↳施設のトイレ()個、仮設トイレ()個 使用不可 ()
食糧等	水 (無・有)→(十分・不十分) 水以外の飲料 (無・有)→(十分・不十分) 弁当 (無・有)→(十分・不十分) 栄養機能食品・特別用途食品(無・有)→(十分・不十分) 医薬品 (無・有)→(十分・不十分) 提供主体 (行政・自衛隊・ボランティア)
炊き出し	(行っていない・行っている)→(開始日 平成 年 月 日)調理者 (行政・自衛隊・ボランティア・避難住民)
食事内容 ※記入日またはここ2-3日の状況を記入下さい。	主食 (無・有)→(十分・不十分) たんぱく質 (無・有)→(十分・不十分) 野菜 (無・有)→(十分・不十分) 果物 (無・有)→(十分・不十分) 加熱 (している・していない)
避難住民の状況	
避難所住民数	収容人数 ()名 男女比 (男 :女) 年齢層 ()
特別な配慮が必要な方	乳幼児 (いる・いない)()名 妊産婦 (いる・いない)()名 高齢者等嚥下困難な方 (いる・いない)()名 食物アレルギーがある方 (いる・いない)()名 慢性疾患等で食事制限が必要な方 (いる・いない)()名 糖尿病 名、高血圧 名、腎疾患 名 その他() 対応状況 (おおむね対応できている・対応できていない) 理由()
自由記載欄(困っていること等)	

被災者健康相談票

相談日 年 月 日

No	担当者名
種別	・面接→避難所名又は住所() ・TEL(電話番号:) ・その他()
相談者氏名	
対象者	・本人 ・本人以外→氏名() (続柄:)
※以下は、対象者の方についてご記入下さい。	
生年月日	明治・大正・昭和・平成 ()年()月()日 ()歳
対象者属性	・乳幼児 ・妊婦 ・授乳婦 ・食物アレルギー
現病歴	・糖尿病 ・高血圧 ・腎臓病 ・その他()
現病歴の治療状況	<u>現在の服薬状況</u> (中断 ・ 継続) 薬品名()
これまでの食事制限	食事制限 (有 ・ 無) 具体的な制限内容 ()
現在の自覚症状	・発熱 ・吐き気 ・便秘 ・下痢 ・口腔内症状() ・歯に関する症状 ・その他()
現在の食事内容	乳児の場合 (母乳 ・ 粉ミルク ・ 混合) 離乳食 (開始 ・ 未開始) 子ども・成人・妊婦・授乳婦・高齢者の場合 (主食 ・ たんぱく質を多く含む食品(肉、魚、卵、乳類等) ・ 野菜 ・ 果物) 具体的な食事内容 () 1日の食事回数(1回 ・ 2回 ・ 3回 ・ その他()) 食欲 (有 ・ 無) 水分摂取状況 (ml)
身体活動	(1日座位、寝ていることが多い ・ 身体を動かしている)
相談内容	
指導内容	
今後の支援計画	(解決 ・ 継続)

被災者栄養相談票（経過用紙）

救護場所	氏名	No	
平成 年 月 日 相談方法	相談内容	指導内容	担当者

関東・東北豪雨災害における JDA-DATの主な活動

- ① 茨城県保健予防課のもとで避難所巡回等の実施
- ② 災害支援車両JDA-DAT河村号等による避難所への支援物資の輸送と巡回栄養相談
- ③ 日本栄養士会 特殊食品ステーションを設置（水海道体育館）
- ④ 避難所に駐在している避難所管理者・保健師との連携

3チームで避難所 巡回

- 常総市を3つの区画に分け、それぞれ県保健予防課栄養士より、伺った避難所に赴き 避難所のアセスメント、各避難所の保健師 管理者に食事で困っている方はいないかヒアリングを行い、対応した。
- 若い世帯の多い避難所
高齢者の多い避難所
避難所への寝泊りはないが、情報や食事のみ受け取りに来る方がいる避難所など、ニーズは多岐にわたった。



関東・東北豪雨災害における JDA-DATの主な活動

- ① 茨城県保健予防課のもとで避難所巡回等の実施
- ② 災害支援車両JDA-DAT河村号等による避難所への支援物資の輸送と巡回栄養相談
- ③ 日本栄養士会 **特殊栄養食品ステーション**をはじめて設置(水海道体育館)
- ④ 避難所に駐在している避難所管理者・保健師との連携

水海道体育館 日本栄養士会 はじめての 特殊栄養食品ステーション



写真撮影 山田恵子

JDA-DAT

支援物資と企業ボランティア



写真撮影

山田恵子

JDA-DAT

関東・東北豪雨災害における JDA-DATの主な活動

- ① 茨城県保健予防課のもとで避難所巡回等の実施
- ② 災害支援車両JDA-DAT河村号等による避難所への支援物資の輸送と巡回栄養相談
- ③ 日本栄養士会 特殊食品ステーションを設置（水海道体育館）
- ④ 避難所に駐在している避難所管理者・保健師との連携

9月の冷房設備のない体育館

朝食

パン おにぎり
飲み物
レトルトおかず

昼食

パン おにぎり
飲み物
炊き出しのおかず

夕食



写真撮影

山田恵子 JDA-DAT

食事提供の支援

避難所管理者

- 夕のみお弁当、毎日大体同じ内容なので、追加したほうがいい食べ物ありますか？
- 体育館は暑い。涼しいところに置いていますが、何か対策できませんか？
- 炊き出しは、週に2回来る予定ですが、はっきりわかりません。

保健師

- 日中は、家の片づけをされているので、食事を摂っているのか確認が出来ない。
- 入れ歯を紛失した、高齢者は、おにぎりが食べられない。

避難所に避難されている方への支援

避難所管理者

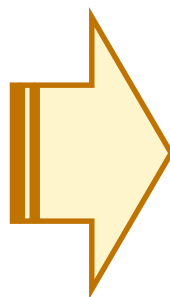
- 日中避難所にいるのは、高齢者か体調の悪い人のみ。
- 食事について相談したい人がいたらどのようなようにすれば良いか

保健師

- 薬が必要な方が多かったが、落ち着いてきている。
- 認知症なのか、食事を食べていただけでないひとり暮らしの方がいる。お弁当以外で食べられそうなものはないか？

救援物資の管理と支援

- 救援物資の受け入れと払い出し
- 避難所巡回時、アセスメントからニーズを確認し、救援物資で対応する。
- 食糧配布ボランティアへの食品の配布方法の説明



救援物資配布場所への受け入れと倉庫の整理

ニーズにあった救援物資を必要な避難所に提供する。

食糧配布ボランティアは男性が多く、おかゆややわらか食を渡されても誰に渡すかわからない。

巡回ミーティング

- ミーティングには県健康予防課栄養士に参加していただき、朝の災害対策本部からの情報を伝達していただき、翌日の災害対策本部ミーティングでDATが収集した情報を報告していただく。
- 各チームから、巡回した避難所食事提供状態を報告。
- 特に、対応が急がれる事項を抽出。
- 他職種に、つなぐ必要がある事例について報告。
- 翌日の活動について検討し方向性を決めて本日の活動終了。

経過

- 独居の高齢者・認知症の高齢者の方は、福祉避難所へ場所を移された。
- 乳幼児のいる世帯では、保養施設に移動する方も多くなった。
- 避難所の統合と閉鎖が始まり、食事環境も整ってきたため、救援物資の支給の必要性はなくなった。
- 災害支援チームの撤退も近いことを日栄に報告する。

福祉避難場所とは

災害対策基本法施行令

災害対策基本法による避難所の指定基準の一つ。

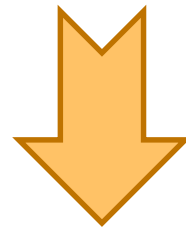
「主として高齢者、障がい者、乳幼児その他の特に配慮を要するもの（要配慮者）を滞在させることが想定されるものにあつては、要配慮者の円滑な利用の確保、要配慮者が相談し、また助言その他の支援を受けることが出来る体制の整備、その他の要配慮者の良好な生活環境の確保に資する事項について内閣府で定める基準に適合するもの

（災害対策基本法施行令第20条の6第5条）

私たちの ミッション

避難所の状況を確認し、茨城県保健予防課栄養士と協力し、**避難所へ必要な救援物資を提供**する。

対応できない相談に対しては、避難所管理者および関連機関につなぐ。



現状でミッションは、ニーズがなくなったことで
終了となる。

支援撤退の理由を日栄災害対策本部に報告。

私は、管理栄養士として 被災地で何をしなければならなかったのか？

- ・ 活動時間に、避難所に被災者がいない。
この時には、県保健予防課の栄養士の下での活動のため、日暮れまで自宅清掃をしている、被災者から直接アセスメントできない。
- ・ 衛生管理
東日本大震災で使用したパンフレットを活用したが、残暑が厳しく停電により冷蔵貯蔵がままならない状態で保冷等準備が必要であった。

撤収⇒帰宅

とても心に残った言葉

『いきなり自宅に帰らないで、サービスエリアに寄りながら、日常の感覚を取り戻してね。』

～災害モードから日常モードに戻る～

アドレナリン大放出の災害モードからの切り替え

災害支援と活動の実際 II

～平成27年9月関東・東北豪雨派遣を経験して～

研修のまとめ

- 日本栄養士会 災害支援サポートチーム リーダー結成後、初出動の実際を知る。
- 個人レベルの準備を理解し実践できる。
- 指揮と連携・安全・情報伝達・評価について理解する。
- 特殊栄養食品ステーションの設置・活動を理解する。

食えることが、元気な今日のはじまり

ご清聴ありがとうございました。

緊急時の！！
家庭備蓄食品

JDA-DAT
The Japan Dietetic Association - Disaster Assistance Team
日本栄養士会災害支援チーム